

プラスチック環境配慮の取り組み

現代社会を支える有用な素材として多くの場面で活用されてきたプラスチックですが、近年は過剰な使用や不適切な廃棄により、海洋プラスチック問題などの環境問題につながる事例が指摘されています。また、製造から処分にかけてのライフサイクルの中で多くのCO₂が排出されることも課題となっています。バンダイナムコグループでは、マテリアリティに掲げる「地球環境との共生」において、「資源・原材料の持続可能な利用」を重要項目の1つと位置付けており、これまでもグループ各社で、天然資源をはじめとした原材料の使用削減や効率的な利用、廃棄物の発生抑制・削減に取り組んできました。これらの取り組みをさらに推進し、より具体化するものとして、バンダイナムコグループでは、2025年4月に「バンダイナムコグループ プラスチック環境配慮方針」を策定。本方針のもと、これまで以上にプラスチックの削減とリサイクルに注力していきます。

バンダイナムコグループ プラスチック環境配慮方針

バンダイナムコグループは、プラスチックが持つ有用性を活かし、より多くのエンターテインメントを生み出し続けていくため、持続可能なプラスチック利用に取り組んでいきます。

プラスチックが使い捨てられることで地球環境に大きな影響を及ぼしていることを重要な社会課題と考え、再生プラスチックや代替素材の活用、および資源循環型社会の実現を目指し、企業として責任ある行動に努めます。

制定年月日 2025年4月1日

主な活動の実績と予定(2026年9月時点)

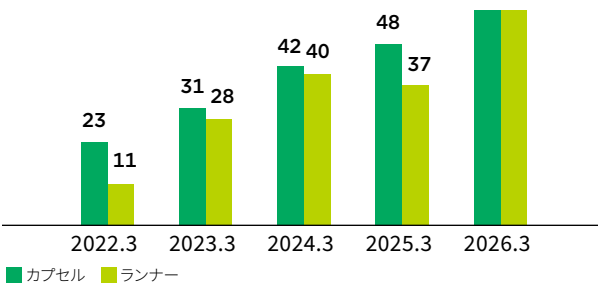
	バンダイナムコホールディングス	国内外グループ各事業各社
2025年3月期	・主要事業会社におけるプラスチック利用量調査	
2026年3月期	・「バンダイナムコグループプラスチック環境配慮方針」の制定および公開 ・事業統括会社およびトイホビー事業におけるプラスチック利用量調査	・石油由来プラスチックの利用量削減の取り組み推進 －代替素材の活用 －再生プラスチックの積極的利用 －景品袋の使用量削減
2027年3月期	・外部パートナーと連携し、プラスチックリサイクル拡大に向けた施策検討	・製品リサイクルの推進

使用済みプラスチックのリサイクル推進

バンダイナムコグループは、プラスチックが持つ有用性を活かし、より多くのエンターテインメントを生み出し続けていくため、持続可能なプラスチック利用を推進しています。全国で展開するグループのアミューズメント施設等におけるガンブラのランナーやガシャポンのカプセル、カードビロー袋等のほか、物流拠点におけるストレッチフィルム等、使用済みプラスチックの回収、リサイクルを進めるとともに、工場で廃棄される廃プラスチックのRPF利用等、限られた資源の有効活用に取り組んでいます。

「ガシャポンカプセルリサイクル」「ガンブラリサイクルプロジェクト」の回収量

(単位：トン)



MESSAGE

プラスチック環境配慮の取り組み



拡大する「リサイクル綿プロジェクト」

目に触れにくい中綿から、事業とサステナビリティを両立する

(株) BANDAI SPIRITS プライズ事業部では、プライズ製品のぬいぐるみに使用する中綿を、ペットボトル由来のリサイクル綿へ切り替える「リサイクル綿プロジェクト」を進めています。きっかけは、縫製品が事業部の商品群の中で大きな割合を占める中、事業として環境配慮に貢献できる領域を検討したことでした。その結果、外側の生地ではなく、お客様の目に触れにくい中綿であれば、製品の魅力や品質への影響を抑えながら、使用量の大きい素材を環境配慮型に変えることができると考えました。

リサイクル綿は通常綿に比べて若干黒みがあり、弾力性も異なるため、導入は簡単ではありませんでした。ぬいぐるみの色や形状によっては、表面の見え方や輸送時の形状維持に影響が出るため、複数の綿を取り寄せ、製品との相性を一つ一つ検証しました。また、協力工場では通常綿とリサイクル綿の混入を防ぐため、保管場所や攪拌機、作業動線を分けるなど、管理体制の構築も必要でした。

2020年の試験導入以降、取り組みは着実に広がり、2026年3月期の実績として、378製品、1,000万個以上へ導入し、4,550万本のペットボトルに相当するリサイクル綿を活用しました。このように導入製品数・数量ともに着実に増加しており、今後はさらなる拡大を目指します。また、トイホビーユニットで開催されるサステナビリティ推進会での情報共有を通じて、グループの縫製品を扱う他部署への展開も進んでいます。

現在のところ、すべての協力工場に導入できてはいませんが、導入済み工場での実績をもとに、未導入工場への展開を進めています。目指すのは、リサイクル綿を使用した縫製品の展開を可能な限り100%に近づけることです。見えない中綿だからこそ、品質を守りながら環境配慮を自然に組み込むことができます。私たちは、事業とサステナビリティを両立する取り組みとして、リサイクル綿の導入をさらに広げていきます。